



# 鹿田小だより



元気いっぱい 勉強こつこつ 親切ハートの  
岡山市立鹿田小学校



令和2年度 第11号 10月14日



## 深まりゆく秋、〇〇の秋！



暑さの残っていた9月が終わり、朝夕は寒ささえ感じるようになってきました。秋本番です。秋と言えば、「〇〇の秋」いろいろな秋があります。実りの秋、芸術の秋、スポーツの秋、食欲の秋・・・そして、忘れてはならないのが、読書の秋です。「無人島に、1冊持って行くなら『〇〇〇』」ある日の新聞の広告欄に、このような見出しがありました。皆さんなら、『〇〇〇』に入れる本のタイトルは何でしょうか？何度も読み返したくなる本、いわゆる愛読書というものなのだと思いますが、残念ながら私にはまだ見付けられていません。秋の夜長、テレビやスマートフォンの画面を見るのではなく、虫の声に耳を傾けながら、ゆったりと読書をするのもいいものです。

1学期にはほとんどの学校行事を中止や延期にしていたのですが、2学期になって少しずつ実施しています。もちろん、新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じての実施となり、例年通りの内容にはならないのですが、子どもたちの楽しそうな笑顔を見ると、「これが学校本来の姿だな。」と感じます。保護者の皆様にご理解ご協力をいただくことが多いと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

### 3年社会科見学

後楽園～サウスヴィレッジ

10月2日（金）に行きました。まず後楽園内を散策しました。鯉や丹頂鶴もいました。次に向かったのは、「サウスヴィレッジ」です。お弁当を食べた後、遊具で遊んだり、塔にのぼって灘崎地区の土地利用の様子を見たりしました。



### 2年生活科見学

浦安公園

10月7日（水）に行きました。浦安公園では、大きな遊具で遊んだり、グループに分かれて秋探しをしたりしました。とても天気がよくて少し暑かったのですが、木陰を選んで座り、みんなで食べたお弁当はおいしかったそうです。



### 5年海の学校

10月8日（木）に行きました。例年は1泊2日でしたが、今年は新型コロナウイルスの影響で、日帰りで行いました。実行委員会が、出発式・海洋博物館見学・昼食・解散式の司会や運営をすべて行いました。「自分たちの力で海の学校をやり切ろう！」という意欲が感じられました。

最初の活動は海洋博物館見学でした。グループで見学しました。大きな水槽の大きな魚やサメに興奮する子、ゆったりと泳ぐウミガメを飽きずにとずっと見ている子など、思い思いに楽しめたようです。気に入った魚をスケッチしました。



雨が降っていたので、昼食は施設内でとりました。そして、いよいよメインの活動、カッター研修です。カッターの上から救命胴衣を着けました。砂浜で話を聞き、カッターに乗り込みました。いつもなら、「よーいしょ！」という大きな掛け声とともに漕ぐのですが、今回は無言で漕ぎました。声ではなく、友達の動きを見たり、オールが波にあたる音を聞いたりして、動きをそろえてカッターを進めました。「協力」すること、お互いを「思いやる」ことの大切さを実践を通して学ぶことができました。



### 学校長のつぶやき ～「実るほど 頭を垂れる 稲穂かな」(みのるほど こうべをたれる いなほかな)～

鹿田小学校周辺には田がなく(あるのかもしれませんが...)、稲が実っている様子を見ることはできませんが、我が家の周りには田が多く、今(10月上旬)はどの田にも黄金色の稲が豊かに実っています。そしてまさに「頭を垂れる稲穂」の状態です。このことわざは、稲が成長するとその重みで穂の部分(頭)が垂れ下がってくることから、「若い頃はまっすぐに上だけを向いて成長し、その後いろいろな荒波や苦勞を乗り越えて、立派な人格を形成した人物であればあるほど、頭の低い謙虚な姿勢になっていく。」という意味ですが、一方で、「稲穂の中身が育っておらず、スカスカだった場合には、穂が垂れるほどの重みがなく、頭が下がらない。つまり、見た目や肩書きではなく、中身が伴っていないと、人格者とは程遠い人物である。」ということも示しています。私がこのことわざと出会ったのは、おそらく高校生か大学生の頃だったのだと思いますが、それ以来、稲穂が垂れ下がっている様子を見るたびに、このことわざを思い出し、「こうありがたいものだ。」と、いつも自分の生き方を思い返し、反省しています。

ちなみに、英語には「『The boughs that bear most hang lowest.』＝一番実を付けている枝が一番低く垂れ下がる。」中国語にも「『成熟的稲穂低着头』＝成熟した稲穂は頭を下げる。」という表現があるそうです。

